

# こくりゆう だより

2月号



こくりゆう  
大阪府立桜塚高等学校 2年 黄 飛逸  
「日本と中国の文化の組み合わせのイメージで、お互いに相手の良いところを  
学んで、文化を斬新な形で発展させていきたいと考えています」



## 今後のイベント情報

※場所の記載がないものはとよなが国際交流センターで開催します。



外国人親子のための

### 小学校入学準備相談会

3月1日(金)

12:30~13:30

日本の小学校生活についての説明・相談会。英語、中国語、韓国・朝鮮語、フィリピン語、タイ語、スペイン語、ベトナム語、ネパール語の通訳あり。

定員:20名(就学前の子どもを持つ外国人保護者・子ども同伴可)

参加費:無料

申込:来館または電話受付

外国にルーツを持つ若者による

庶民派室内フェス

### 「Sho! Ming! Ha!」

3月3日(日)

10:00~16:00

ラップの発表、屋台の出店ほか。

場所:ピアサロン

(豊中市中桜塚2-27-8

桜塚ショッピングセンター2階)

定員:100名

参加費:500円

申込:不要

春期ホストファミリー

### ボランティア登録説明会

3月3日(日)

14:00~16:00

留学生と交流するホストファミリー事業(家庭宿泊なし)の説明、経験者や留学生との懇談ほか。

定員:30名(申込先着順)

参加費:無料

申込:2/26(火)までに来館または

電話受付。

12月22日(土) 平和と共存のための  
おまつり地球一周クラブ 「アイヌを知ろう！」



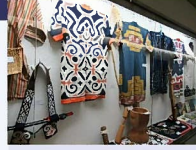
講師と一緒に  
ストラップ作り



講師のお二人



アイヌ紋様のスタンプで  
オリジナルのエコバック作り



ギャラリー展示のようす



樹木の繊維を使って  
ストラップが完成!

MinaMinaの会(アイヌ民族の文化・伝統・歴史・人権をわかりやすく伝える会)のお二人を講師にお招きし、アイヌ紋様スタンプを押してオリジナルのハンカチやエコバックを作成。樹皮を加工した繊維を編んで、ストラップ作りも行いました。アイヌ語の挨拶や手遊びを教えていただき、昔話アニメも観て、子どもたちはアイヌ民族の文化の一端に触れ、楽しく貴重な体験ができたようです。

今回イベント時に利用した資料をお借りすることができ、センターのギャラリーで約1か月間のスペシャル展示を開催しました。みなさんにアイヌ民族に興味をもっていただき、更に“他民族・異文化を知り関心をもつこと”、“多文化共生について”等を考えていただける機会となれば幸いです。

12月23日(日) 開催

「ともにいるシンポ part2ー多民族社会日本のこれからー」

子どもの夢応援ネットワーク(当協会もメンバー)が主催し、教育に興味・関心のある約100名が大阪市立敷津小学校に集まりました。

第1部の保坂展人さん(世田谷区長)の講演「地方分権と多文化共生を考える」では、世田谷やアメリカのポートランドの事例から、まちづくりにおけるボトムアップの大切さや「あるものを生かし、ないものを創る」など実践のヒントをたくさんもらいました。

第2部は金光敏さん(コリアNGOセンター)のコーディネートで、ラポルテ雅樹さん、ネルソン百合子さんの外国にルーツをもつお二人に保坂さんを交えたパネルトーク。「外国ルーツ」という言葉ではくくりきれない一人ひとりの想いが語られました。保坂さんからは、それを形にし、多文化共生社会を実現するために、“一気にものごとを変えるのは難しくても、たった5%の変化であっても毎年積み重ねていけば大きな変化になる”という「5%の改革」の話など、ライブ感満載のトークに参加者たちも大きく傾いていました。第3部の参加者によるテーブルトークも登壇者の熱を受けて濃い議論が交わされ、非常に濃い集まりとなりました。



第一部 世田谷区長の  
保坂さんによる講演の様子

11月13日(火)・11月15日(木) CUL 職場体験・豊中市立第十五中学校

11月13日と15日の2日間、豊中第十五中学校よりCUL(職場体験)として中学2年生2名がとよなか国際交流センターで体験をおこないました。電話や受付対応、掲示物の作成、「とよなかにほんご“木ひる”」への参加など、様々な体験をしてみました。2日間の体験を終えた中学生からは、

「“木ひる”の中で、外国の方が日本語をどのように身に付けるのが良く分かりました。実際に外国の方とコミュニケーションができて良かったと思います。」「仕事をしていく中で、その大変さとやりがいを感じることができました。この2日間でやってきたことを日常で活かせるようにしたいと思います。」という感想をもらいました。

初々しい2人の仕事ぶりや、課題としてお願いした自分についてのプレゼンテーションなどの発表に、事務局職員も刺激をもらいました。今後も地域の小中学生とのつながりを大切にしながら、一人でも多くの子どもたちに国際交流センターや国際交流について関心をもってもらえたらと思います。

【予告】3月3日(日) 庶民派室内フェス「Sho!Ming!Ha!」ってなんだ?!

2019年3月3日、庶民派室内フェス「Sho!Ming!Ha!」が3年ぶりに帰ってきます!このイベントは外国にルーツをもつ若者が中心になり、普段センターを利用している日本人ボランティアや日本語の学習者とともにラップなどの出し物や料理をたのしみ、ひとことと言えば小さな文化祭のようなど、ゆるーいイベントです。



2016年「Sho!Ming!Ha!」の様子

今回は2016年3月に行われました。普段はそれぞれセンターを利用しているものなかなか繋がる事のない人々が出会うことで新しいものが生まれ、その場でカラオケ大会が始まったり、飛び入りで始まったダンスをいつの間にか会場全体で踊っている。そんな不思議なイベントでした。今回も若者を中心に、ラップやトークショーなど準備を進めています!

みなさん、ぜひ不思議体験におこしく下さい!



2016年「Sho!Ming!Ha!」の様子

協会事業に長年ボランティアとして関わり、日本語支援グループ・むすびめの立ち上げメンバーでもある木内さんが、協会ボランティアを引退されました。これまでの活動についてお話を伺い、インタビュー形式で紹介しませう。

### —センターに初めて来られたのはいつ頃ですか？

旧センターにふらっと入ったのが2008年。息子が海外へ行くことが多く、普段から外国の話聞きながら「では外国人は、日本をどんな風に捉えているのか…？」と思ったのがきっかけです。当時は、外国といえばアメリカ、というイメージが強くありました。最初は「とよなかほんご木ひる」でボランティアをすることになり、東南アジアの方やネパールやタイの方と学習を始めると、本当に知らないことばかりで驚きの連続でした。

### —「とよなかほんご木ひる」だけでなく、その後も色々な活動をされていましたよね。

その後、親子や子どもの日本語学習にフォーカスされるなかで「就労に関わるもの」に焦点を当てた新しい事業に関ることになりました。これが「日本語支援グループむすびめ」、そしてその後立ち上げた「もっともっとなつかのほんご」の始まりですね。

むすびめに関しては、他にも多くのベテランのメンバーがいたので、安心感がありました。日本語能力試験の資格を取るための学習サポートをはじめ、ブラジル人が経営するバーに昼間から行って、店内で一緒に勉強したり…ということもありました。

### —木内さんから見た「これからの国流」に必要なものは何でしょうか？

とよなか国流の日本語事業は、「教室型」ではなく「交流型」。

他の国流からすごいとよく言われていますし、もっとリーダーシップを発揮しても良いんじゃないかと思います。広域で活躍する国流になってほしいですね。



日本語支援グループ むすびめ  
木内 淑子 (写真中央)

## コラム

### 少しだけ北の国から@福島 (第17回)

## 辻 明典

協会事業（哲学カフェ、プロジェクト“まんかふえ”等）に参加していた辻明典さんが、2018年度より故郷である福島県南相馬市に戻り、教員をしています。辻さんからの福島からの便りをどうぞ。

2017年3月31日、東京電力福島第一原子力発電所の事故によって双葉郡浪江町内全域に出されていた避難指示が、一部の地域で解除されました。ただ、「帰還困難区域」に指定され、放射線量が高い地域は、避難指示は解除されてはいません。（もっと言うと、事故から7年以上がたった現在も、「原子力非常事態宣言」は解除されていません。まだ、原発事故は終わっていないどころか、未だに「原子力非常事態」のなかで僕たちは暮らしているのです。）

浪江町には、祖父が若い頃に修行をしていた、造り酒屋がありました。僕の実家は酒販店を営み、職住一体の暮らしをしていたので、子どもの頃は、浪江町の蔵から酒を卸しにやってくる大人たちの姿を、よく見ていました。トラックから酒瓶を倉庫に運んでもらった後、仕入れ値を払い、次の注文を取る、仕事口調の大人たちの背中を見ながら、「動く」とはどういうことなのかを、教わらずとも、肌で感じていたのです。

「浪江にあった、あの酒蔵はどうなっているのだろう。」

ふとそんな思いに駆られた僕は、酒造りの季節になれば、杜氏の里から酒屋者が集っていた、あの酒蔵があったはずの場所に向かってみました。軽トラックに乗せられて連れていってもらった記憶を辿りながら、その造り酒屋があった場所を探し当てました。路地を抜け、道がひらけてくると、古風な建物が見えてくるはず、だったのですが、その面影は跡形もなく、建設会社の仮設事務所が建っていたのです。

原発事故によって、酒造りをしていないことを漏れ聞いてはいたのですが、せめて建物だけでも残ってはないかと思っておりましたので、ここまで跡形もなく壊された姿を直に見ると、ただただ、遑る瀬無い気持ちになってしまいます。

土も水も放射能によって汚染され、米が作れない。米が作れないと、麴も作れない。

米も麴も作れないと、酒も醸造できない。酒の醸造ができないから、杜氏たちが働く場もない。

酒を醸すことができないので、料理の味つけも失われていく。

土地が汚されるということは、土地に根ざした生業や文化が壊れることと同義なのです。

最近、原発事故前の町の姿を、だんだん思い出せなくなってきています。忘れそうになる記憶を辿りながら、かつての造り酒屋の跡を歩いていると、バトカーからおりてきたお巡りさんに「何をしているんですか？」と声をかけられました。

「実は・・・」僕は、詳らかに、この辺りを歩いていた理由を語りました。実家が酒販店を営んでいたこと。祖父がここで修行をしていたこと。ここから、酒を仕入れていたこと。そんなことを。

「いつも歩いているのはお年寄りばかりだから。若い人が歩いているのは珍しいから、何事かと思って、声をかけちゃったよ。」お巡りさんはそう言いました。記憶を辿りながら歩いているだけで、職務質問をされるとは、思いもしませんでした。どんなつもりで、僕は声をかけられたのでしょうか。ただ複雑な思いだけが、胸の底に残ったのです。



ここには、造り酒屋があったはずでした。



大阪府立桜塚高校美術部

——いつもきれいな表紙を描いていただき、ありがとうございます。加福さんと増元さんは過去に表紙を描いてくださっていますが、イラストを描く際にイメージするものはありますか？

加福：私は、その時期に街中で見かける色を意識してイラストを描いています。

増元：あとは季節の風景やイベントに関連する絵を描くことが多いですね。

——書く人によって絵のタッチが違うのは、画材の違いですか？

加福：そうですね。水彩色鉛筆といって、水に溶ける色鉛筆も使うことがあります。

増元：私はコピックという色塗り用のペンで描くことが多いです。

中尾：僕はモノクロの絵を描くので、基本は鉛筆ですね。

——黄さんは、中国の学校でも美術部に所属していたのですか？

黄：中国の学校では美術部がありませんでした。今は留学中で来年7月まで桜塚高校に在籍しています。今は芸文祭に出展するために初めての作品を制作しています。

——作品を観た方からの反響などは、どんなものがありますか？

加福：描くときは、不快感を与えないことも意識しながら、観た方に共感してもらえるような作品を目指しています。たまに作品展を観た地域のおばあちゃんに、「上手だね」「こんなこともあったねえ」と言われると嬉しいです。

## こくりゅう5W1H! (第2回)

こくりゅうにまつわる、「あれってなんだろう」「だれがつくってるんだろう」という様々な疑問にお答えする新コーナー(不定期掲載)です。今回は、「こくりゅうだより」の表紙を隔月で描いてくれている大阪府立桜塚高校美術部の皆さんに、表紙制作や日頃の活動についてインタビュー形式でお聞きしました。

※月号の「登録グループの活動紹介」はお休みします。

——今後、描いてみたいイラストなどありますか？

加福：大きいサイズの絵に挑戦したいですね、見た人が驚くようなサイズの絵を描いてみたいです。

増元：これまであまり使ってこなかったので、ペンタブを使ったイラストに挑戦してみたいです。

中尾：今まで鉛筆のみのイラストが多かったので、油彩のイラストもいくつか描きたいです。

黄：風景のイラストも描いてみたいですし、建築物の絵にも興味があります。



桜塚高校美術部2年生の皆さん。

今月の表紙は、中国からの留学生で2年生の黄さん(写真左から2番目)が描いてくれたイラストを掲載しています!!

とよなか国際交流センターおしらせ

「こくりゅうだより」第118号(2019年2月号)

発行元・問い合わせ:(公財)とよなか国際交流協会

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F  
阪急宝塚線豊中駅すぐ

開館時間:9:00~21:30(貸室受付は20:00まで、水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail:atoms@a.zaqq.jp WEB:http://www.a-atoms.info/

多言語情報も  
配信しています!



SNSも随時更新中!

「とよなか国際交流センター」で検索!

